

二中の木

学校報
第5号
H29/06/27



能代市立
能代第二中学校
TEL52-5138

◇二中学生に願う！◇ 応援してもらえ幸せ



昨年度発行した『二中の木 第4号 5月23日付』には、同名のテーマで何のために部活動を行っているのか、なぜ部活動で応援される必要があるのか、応援される条件とはどんなものかなどについて、私なりの思いが述べられています。

さて、依然肌寒さが残る今夏も県総体大会の各種競技が、6月17、18日の両日に渡って行われました。『二中王者の戦い』勝って県大会の思い強く、各会場で二中学生は存分の活躍をし、多くの方々から『一杯の発信をした』のでした。

激励会に臨む姿勢から



例年、大会前の激励会ではどうしても照れくさささ先に立ってしまい、声が小さかったりニヤニヤしたりというのいつもの風景でした。しかし、今年の様子も少し違いました。きびきびとした移動の態度、相手に聞いてもらおうとする真剣さ、何よりもこれから試合や競技に臨もうとする緊張感や闘志がよく伝わってくる決意表明となりました。そうそう、忘れてならないのは後輩方の臨む姿勢の素晴らしさです。主



役は三年生で、私達は脇役。」と語り立てよう、応援が中心になるかもしれないが私達も大会に参加するのだという気持ちが、多くの部活から伝わってきます。特に男子卓球部一年生部員の気の利いたコメントは、

みんなの登校日」で参観に来

人の心を引き付ける行為

途切れないのだという、伝統校としての確信を新たにしたのでした。

この競技での緊迫したゲーム展開



は、戦前から予想されていました。緊迫した状況にあって、そのキヤプテンは笑顔を見せません。仲間のミスに「大丈夫！この後しっかり。」の一言。そうか、まだまだ行けるな。」と思わせて余りある爽やかな笑顔がありました。東北大会でも十分に活躍できる実力ではありましたが、閉会式で手にしたのは準優勝の賞状一枚でした。それでもキヤプテンは、涙でくしゃくしゃの笑顔で白い歯をのぞかせながら「ありがと、ありがとうございます。」と、思いのこもった言葉を返していました。競技を通して部活動に誠実に取り組んできたこと、競技を通して身体と心に染みつけたチームメイトへの思いやりが見事に発信された瞬間でした。

応援せずにはいられない気持ち

大会数日前の体育館での練習中のことです。私は、あるキヤプテンに向か



って 新人戦以来、君が引く張って来たチームです。何よりも君の励ましが、チームを奮立たせてくれます。」と話しました。キヤプテンは、微笑んでくれました。

試合結果は、残念ながら準優勝でした。応援席へのあいさつで、その人はお辞儀をした頭を一人下げ続けていました。何も悪びれることはない。顔を上げて学校へ帰ろう。」とスタンドから声が掛かっていました。周囲には、その様子に涙する方々の姿が多くありました。



キヤプテンを務めるといふことがいかに難儀なことか。どんな結果であっても、正面から一身に受け止める責任感の尊さと潔さが見事に発信された瞬間でした。

応援される二中学生

自主不屈 友愛」の二中スピリッツが様々な形で表現された大会だと思っております。将来、ピンチに出会うようなことがあれば、このスピリッツが突然に光を放ち輝き出すことを、これからもずっと信じています。王者の戦い」は、皆さんの未来にも続いていきます。戦いを続ける力が、皆さんには備わったのですから。

【終】